いつでも誰でもどこでも無料で
―ブログ「詩の散歩道」―

洲浜昌三

「塵も積もれば山となる」。気が向くままに詩や演劇、地域の文化情報などをブログに書いていたら、その項目が六百近くになった。

地方の詩や文学、演劇、文化活動などは広く知られることはない。「地域の文化活動」を紹介し、活動している人たちの「励まし」になれば、と思って書いてきた。詩集の紹介、観劇記、舞台発表などは必ず写真を挿入してわかりやすく楽しく読めるようにしている。一つの記事で平均八百字くらいになるので、原稿用紙にすると千四百枚くらいになる。「チリ」かどうかの評価は人に任せるとして、分厚い一冊の本に相当する。

元々このブログはぼくが始めたものではない。劇研「空」で一緒に活動しているマツモト君が連絡と情報発信のために平成十七年に開設したもので、ぼくも時々書いていた。しかし、十日も二十日も空白がつづくと、外部に無責任という印象を与えると思ったので、ぼくだけは書き続けた。そのうち彼は、忙しいこともあり、ほとんど書かなくなり、軒を借りて雨宿りしていたぼくが、母屋に居着いたというわけである。主の顔をしながら、アナログのぼくは、デジタルに強い管理人の下で、「書くだけ」である。書きたいことはたくさんある。

平成一七年に、劇研「空」のブログ「Stagebox」という名前でスタートしたが、ぼくがその中にいろいろなことを書いて乱雑になったので、平成二十二年に管理人に申し出て、同じサイトのなかに「詩の散歩道」という別のサイトを作ってもらった。そこにはつぎのようなカテゴリーがある。

「中四国詩人会」「地域情報」「島根文芸フェスタなど」「島根県詩人連合」「昌ちゃんの詩の散歩道」「観劇記」「詩作品紹介」「詩集や本の紹介、感想」「高校演劇」

アナログ人間がデジタルの世界に入っていくと迷路だらけで、わからないことばかりだが、面白い発見や便利なことも多い。

例えば、外部の人がどうゆう語句で検索してこのブログへたどり着いたかたかがわかる。「人気検索キーワード」という蘭に、「石見詩人、島根の詩、閤田真太郎、高校演劇の創作・・」などと単語が出ている。

毎日、何人がこのブログを開き、どのくらいの時間読んだかもわかる。週、月、年間毎の来訪者数のグラフもたちどころに表示される。

今ここで、パソコンを操作して、「過去一ヶ月の人気記事」をクリックしてみよう。直ちに次のような項目がリストアップされて画面に表示される。

「平成二十七年度 島根文芸協会の行事について」「第三十八回島根県校高演劇大会劇評」「高校演劇の創作について」「いま島根の高校演劇は」「第十四回中四国詩人賞御庄さん、高田千尋さんへ」「季刊『高校演劇』二一四号紹介」「田所出身の作家・小笠原白也のこと」「広島県高校演劇大会（福山）劇評」

高校演劇関係の記事は年間を通してコンスタントに読まれている。「高校演劇の創作について」は当初から現在も変わらず来訪者が多い。詩に関する記事を読む人はあまり多くない。詩に関心がある人が限られているからだろう。その限られた人たちの中で、高齢者が多く、パソコンなどで情報を集める人は更に少ないからだろう。

ある日、パソコンを開いてびっくりしたことがある。

「竹内幸夫さん、『神楽の魅力』未来塾で講演」の記事のグラフが飛び抜けて高かく、二百人以上あった。理由がわからなかったが、次の日、新聞で他界されたことがわかった。多くの人が検索したのだろう。

こんなこともあった。戦前に大田で『静窟』という同人誌を発行していた中島雷太郎という人がいた。あらゆる手を尽くして調べたがわからなかった。ある日、メールが届いた。大阪の中島康信という人からだった。ぼくのブログで、「島根の詩」の中に、「中島雷太郎」の字があったのを見つけてメールをされたのである。康信さんは雷太郎氏のご子息だった。雷太郎氏の歌集やエッセイのコピーも送っていただいた。

センセーショナルな話題を取り上げたり、刺激的なことを書けば読者数を示すグラフも急増するが、プライバシーの問題や面倒なことも派生するので、「堅実な内容」に徹している。読む人は一日、三十～八十と多くはないが、たまに、第一線で活躍している人が読んだことがわかったりすると、「好きなことをして人に役に立てば」幸せ、と思ったりすることもある。

海外で読む人もいることがわかる。同人誌や本は一度読んだら滅多に開くことはないが、ブログは「いつでも誰でもどこでも無料で」読める。お互いに利点や欠点はあるが、今後どうなっていくのだろう。一篇の詩を発表するのに五千円～一万円近く必要な同人誌は、若い人にはますます遠い世界になっていくかもしれない。

さて、そのブログの中から一つ紹介しよう。長い間「石見詩人」を主宰してこられた高田頼昌さんが、本をだされたが、遠慮されてか、誌上で紹介されていない。この

文章は頼昌さん自身も初見にちがいない。ブログでは本の表紙を写真で紹介しているが、ここでは省略する。

高田頼昌さん『埋み火』を刊行　2013/04/20

島根県益田市で発行されている「石見詩人」の編集者・高田頼昌さんが本を出版されました。二〇一二年（平成二四）十一月です。今までに新聞や雑誌などに書いてこられたものをまとめたものです。たくさん写真もあり、貴重な記録なども載っていて参考になります。

あとがきの冒頭に「自らのパソコンで試行錯誤しながらも、七五年の記憶の断片を小冊にすることができた。不思議な気持ちで眺めている。採録できなかった貴重な資料がある。出来得ることならばこの小冊をもとにさらなる夢を広げてみたいと思う」とあります。二弾、三弾がありそうです。

目次は次のとおりです。

1. 田畑修一郎（作家）
1. 赤川武助（児童文学作家）
1. 右田朝子（日本初の眼科女医）
1. 折戸徳三郎（小泉八雲のアシスタンツ）
1. 大谷嘉助（歌人）
1. 高田敏子（詩人）
1. キムラフジオ（詩人）
1. 岡崎澄衛（詩人・医師）
1. 益田糸あやつり人形
1. アメリカ東部とパールハーバーの旅　（一七六～一九一ページ）

高田敏子さんについては、昭和四九年十一月二三日に斐川町の「湯の川温泉」にお招きして懇親会が開かれたとき、ぼくも参加したことがあります。高田正七さんが中心になって第一回の「島根の詩祭」を企画された時のことです。昭和五二年十二月には高田頼昌さんなど石見詩人同人が中心になって高田敏子さんをお招きしたそうです。三度目は昭和五四年で益田市の仏教会が招待し、頼昌さんの自宅で歓迎会を開いたそうです。

この本の中に高田敏子さんの言葉として次のように書かれています。

「いい詩ね、といわれる詩には何があるかと言えば、ほめることばがあること。しっかりとものをみて、そのものの中からどこがいいかを探し出す。そのいいところを引き出し、また作り出して、よい思い方をして、ことばにしたとき、よい詩が生まれる。～もののよさを引き出すのが詩です。以下略」

とても参考になります。現在こんな姿勢で詩を書いている現代詩人はあまりいないでしょう。一般の人が詩から離れてしまったのもここら辺に一つの原因がありそうです。高田敏子さんが朝日新聞に詩を連載されていたとき、いつも目が洗われるような思いで愛読していましたが、こういう姿勢で書いておられたのでしょうね。

この『埋み火』では高田敏子さん以外は益田に関係のある有名人です。いい本を出されました。長い間文章を書いているとたくさん溜まります。正式な本にして出版すれば金がかかります。記録として本にして残すことに徹して最小限の費用で実現する。一つの方法ですね。ぼく自身も以前からその点で考えることがあります。参考になりました。

本に定価は書いてありませんが、欲しい人は益田市東町一七―一五へ問い合わせてみてください。

・・・・・・・・・・・・・・

参考までに「詩集や本の紹介・感想」の項目の中にどのような題名の記事があるか紹介する。

2011・6　岩町功著　評伝『島村抱月』上･下巻
2011　7　故石村禎久氏へ石見銀山文化特別賞
2011・7　閤田真太郎詩集『十三番目の男』を読んで
2011・8　田所出身の作家・小笠原白也のこと（1）
2011・8　H23　『中四国詩集』第四集刊行
2011・9　井上嘉明詩集『封じ込めの水』書評
2011・9　小寺雄造詩集『説法』を読む
2011・9　島根の現代詩の状況
2011・9　吉田博子詩画集『聖火を翳して』を読む
2011・9　くりす さほ　詩集『いつか　また』
2011・10　川本町で発行の俳句誌『霧の海』
2011・12　島根の詩人『原 敏』（田原敏郎）
2012・2　H23　島根県民文化祭文芸作品入賞者表彰式
2012・2　書評　水野ひかる詩集『未明の寒い町で』
2012・2　詩人 高塚かず子の故郷 島根川本
2012・2　藤田 卓 戯曲集『豊島屋物語』出版
2012・ 2　『高森章　脚本集』紹介
2012・ 2　島根 津和野の詩人 中村満子
2012・ 2　活躍した郷土の人々『大田市人物伝』紹介
2012・ 4　島根の詩人 閤田真太郎
2012・ 4　『続・人物しまね文学館』予約受付中です
2012・ 4　季刊『高校演劇』214 号紹介します
2012・ 7　河邊由紀恵詩集『桃の湯』第 12 回中四国詩人賞
2012・ 7　H24　写真秀『石見の昭和』発刊
2012・10　井上嘉明著 評論『鳥取の詩人たち その他』
2013・ 4　高田賴昌さん『埋み火』刊行

2013・6　『竹下夢二特集号』出版 花美術館
2013・6　H25 『島根年刊詩集』第41集刊行
2013・11　詩集『港湾の詩学―詩人の港・詩人の海―』
2014・5　H26 熊井三郎詩集『誰か いますか』
2014・6　『蛮族』37号で作家・石田 登氏追悼
2014・8　H26 『現代の風刺25人集』コールサック社
2014・12　『山陰文藝』創刊20周年記念40号刊行
2015・1　H26 『島根文芸』42号 12回県民文化祭文芸作品集刊行
2015・1　H27 『郷土石見』40周年記念97号発行
2015・1　『山陰詩人』200号記念特集号発行
2015・2　H26 14回中四国詩人賞　御庄さん高田千尋さんへ
2015・3　吉田晴治さん最後の詩集 『樹は』
2015・3　『石見詩人』132号　エッセイ紹介